

第44回
大津市
景観審議会

令和6年3月29日

大津市都市計画部
都市計画課

第2次大津市景観計画原案の策定について

- 1 第43回景観審議会における意見と対応について（P3）
- 2 景観重点地区ワークショップ結果報告について
 - （1）景観重点地区ワークショップの概要と結果について（P4～）
 - （2）ワークショップ結果の景観計画への反映について（P10～）
- その他 今後のスケジュールについて（P12）

第2次大津市景観計画原案の策定について

1 第43回景観審議会における意見と対応について

No.	質問者	意見	質問・意見に対する対応	参照頁
1	副会長	和暦で作ると見にくいように思う。昭和ぐらまでは和暦で追えたのですが、令和になると和暦で記載されるとわかりにくい。行政の文章は基本的に和暦だが、西暦も併記できないか。	西暦を追加しました。	
2	会長	1章の1、2ページのところで、活用方法というのがあるが、もう少し分かりやすくないか。頭に何も文章がないので、これが何なのか伝わりにくいように思う。左と右の関係など、何か入れると分かりやすいのでは。	頭書きを追加し、図とフローを修正しました。	1章-1、2
3	委員	パワーポイント資料にある「琵琶湖東海道景観基本計画」の図が、景観計画本編ではどこに記載されているのか。	5章-2、3ページに「びわこ東海道景観基本計画」に掲載されている地図を編集したものを参考図として追加しました。	5章-2、3
4	副会長	6章の2ページに「景観づくりの推進体制」の図がありますが、矢印が何を示しているのか分からない。	図の矢印に具体的な連携内容を記載しました。	6章-2
5	委員	アクション事例に、絵画コンクールなどすでに取り組まれているものも書いてはどうか。	アクション事例に追加しました。	6章-6
6	委員	「本文中に用語集に紐づく場合」と「注釈になる場合」のマークが混在しているようですので、できれば注釈は別のマークにできないか。	資料編作成作業において、ご提案いただいた方向で用語集の作成を進めます。	資料編

第2次大津市景観計画原案の策定について

2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

景観重点地区ワークショップの概要と結果について

第1部

説明会

- (1) 第2次大津市景観計画（案）について
【景観重点地区の範囲、景観形成の方針など】
- (2) 大津市歴史的風致維持向上計画に基づく
歴史まちづくり事業等について

第2部

講演会

これからの景観づくり／田口真太郎先生

第3部

市民ワークショップ



田口先生、講演の様子

第2次大津市景観計画原案の策定について

議題2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

景観重点地区で開催したワークショップの概要(第2部)

**これからの
景観づくり**

第2次大津市景観計画案等に係る
講演会・市民ワークショップ

2024年1月
成安造形大学
田口真太郎

© 2023 TACUJIN-Shimizu

風景には翻訳が必要

1. 琵琶湖と人類史
2. 内湖の生活と生業と信仰
3. 日本の近代化と琵琶湖内湖の干拓



見えている景色 + 見えない来歴 = 伝えたい物語

© 2023 TACUJIN-Shimizu

景観を活かしたまちづくりからの教訓

#地域の価値とは、複素数思考でとらえる

- ・人口減少社会では、「選択と集中」も迫られる時代である。
- ・何を守り、何を残していけるのか?どのように残していくことができるのか?

#守る ≠ 不変

- ・若者の発想を受け入れることから生まれる、新しい保全の取り組み。
- ・老舗の和菓子でも、時代に応じて味や形の調整がされている。

#見えるものを通して、見えないものを伝える「インタープリテーション」

- ・インタープリテーションは教育であり、同時にエンターテインメント。
- ・目に見えるものの知識だけでなく、裏側にあるどんな「メッセージ」を伝えるか?

© 2023 TACUJIN-Shimizu

これまでの近江八幡での活動や、成安造形大学での実践事例をもとに、景観づくりについて講演いただく

- ・見える風景の背後にある見えないストーリーやメッセージをいかに伝えるか
- ・守るものと、時代とともに変えていくもの

これらをワークショップのテーマとして、第3部へ

第2次大津市景観計画原案の策定について

議題2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

景観重点地区で開催したワークショップの概要(第3部)

堅田地区

日時：令和6年1月23日19時から
場所：堅田コミュニティセンター 3階大会議室

大津百町地区

日時：令和6年1月31日18時30分から
場所：中央支所 4階大会議室

坂本地区

日時：令和6年2月9日19時から
場所：坂本コミュニティセンター 2階大会議室

ワークショップテーマ

- 景観重点地区において、特にどの景観（建造物＋取組）を大事にするか。
- 守るためにどのような変化が必要か。
- 新しい魅力づくりができそうか。

第2次大津市景観計画原案の策定について

議題2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

堅田地区(参加人数：12名)

【主な意見】

地区の歴史資源	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの神社仏閣が集積しており、特徴的な景観を形成している。 ・伊豆神社やその周囲1kmぐらいの範囲や供御人行列などの行事が重要である。 ・芭蕉が句を詠んだ十六夜の井の碑を中心とした月見に関わる資源が重要である。 <ul style="list-style-type: none"> →地域の人々が歴史への認識を深める。 →平安末期から堅田の成り立ちから歴史を学ぶ。 →歴史の語り部を育成する。 →観光案内や歴史を学ぶ取組に行政が支援をする。 →石垣等の修繕が必要である。
琵琶湖や内湖、その周辺の景観	<ul style="list-style-type: none"> ・堅田21世紀の会をはじめ、地区住民等で内湖の清掃活動を進めている。 ・淡水真珠養殖の棚の撤去等についても進められており、美しい内湖の保全の取組を進めている。 <ul style="list-style-type: none"> →内湖の周りを回遊できるような遊歩道を整備したい。 →内湖大橋のたもとにある公園も、より内湖と一体的となるような親水公園に整備したい。
生業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史ある酒造を盛りあげるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> →地域で有名な酒をPRする。 ・シジミの殻を積み上げてある漁港の風景を大切にする。 <ul style="list-style-type: none"> →地域の周辺を歩くイベントなどとして多くの人に知ってもらう。
景観協定区域のまちなみ	<ul style="list-style-type: none"> ・堅田のまちなみ景観は琵琶湖からの眺めも美しい。 <ul style="list-style-type: none"> →カヌー遊びなど、琵琶湖から眺めるような取り組みがあっても良い。 ・堅田には、2つの景観協定区域（落雁の道地区景観協定、出島灯台のまち景観協定）がある。 <ul style="list-style-type: none"> →2つの景観協定区域のつながりを強くするような周遊ルートつくるなど、内湖やびわこ湖岸沿いを歩けるような遊歩道が整備したい。



第2次大津市景観計画原案の策定について

議題2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

大津百町地区(参加人数：25名)

【主な意見】

地区の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・町家が減り続けている。まちの特性が希薄になっている。 ・町家は個人の財産であり、維持が難しく補助も出ないのでマンションに変わっていく。
厳しい規制が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・規制がないとマンション建設を止めることができない。 ・旧東海道の一部だけは地区計画がかかっているが、他のところは地区指定がない。 ・強制力のある規制が重要で行政が決めることである。 ・高層マンションが建てられないように、ルールはもっと厳しくてもよい。 →地区計画なども検討するべきではないか。 ・大津百町の景観はこうあるべきだというような、景観イメージが共通認識として無い。 →屋根は瓦で統一する等、規制力を強め、インセンティブを与えることをしながら強く進めていくべきである。
歴史的な資源	<ul style="list-style-type: none"> ・お城等のような、まちのシンボルとなるような景観資源はない。 ・大津宿本陣跡や蟬丸、大津祭等、大津百町の歴史を物語る地域資源は豊富にあるのが特徴である。 ・寺町通り等の歴史ある通りは風情もある、通り沿道の町家も残していきたい。 →マンション住人等にも地域の特性を知ってほしい。
伝統と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・祭が似合うまちとして維持していきたい。 →大津祭を継承していくのに課題がある。世界遺産にふさわしいまちにしていく必要がある。 →曳山ルートに電柱などがある。歴史景観を守るのであれば、電柱の地中化をすべき。 ・町家は二階から曳山が見られるようにデザインされている。見た目だけでなく文化や特性を守ることが大切である。 →歴史を伝える案内板などが整備されると良い。 →町名や地元用語等も地域の文化的資源として大切にしていきたい。



第2次大津市景観計画原案の策定について

議題2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

坂本地区 (参加人数：14名)

【主な意見】

地区の資源	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な建物や石積み（穴太衆積み）のあるまちなみ、社寺が点在していることが重要である。 →知名度を上げて、坂本らしさ多くの人に知ってもらう必要がある。 →「語り部」ボランティアガイドに話をしてもらう機会や人材育成が必要である。 ・紹介・発信するような機能が現状ないので、来街者等にも伝わっていないと思う。 →駅前に観光案内サインを新たに整備する、既存のまちなかのマップを洗練させる等はずべき。 ・坂本から見た琵琶湖の景観（まち中にも見える場所がある）がよい。 ・坂本は三社寺（延暦寺、日吉大社、西教寺）の門前町である。
伝統と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・山王祭を継承していくことが重要である。 →まちなかでも祭りが行われるので、祭りが似合う通り（場所）にすべき。 →祭りの時等、ピーク時における来街者を限定することも必要だと思う。 →新しく坂本地区に来られた住民の方にも、坂本の魅力を伝え、継承していくべきだと思う。 ・歴史的な道すじ（通り）からの山並みへの眺めが良い。 →眺めを良好にするため沿道の石積みや伝統的な古民家を良好に残していく必要がある。
規制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的なまちなみにそぐわない屋根の建物が建ってしまうことが問題である。 ・周辺に住宅等開発が多く、勾配屋根のないまちになってしまう。 →重要な通りなど、地区計画の範囲を広げまちなみを守る必要がある。 ・観光客等の来街者も増加しつつある。一方で、山王祭の時は、多くの人が祭りを見に来ており、地元民として祭りの様子を見ることができない等、関わりにくくなっている状況もある。 →祭りの時等、ピーク時における来街者を限定することも必要だと思う。
にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内に飲食店があれば、まちなかへの滞在時間も増え、坂本地区の歴史的な地域資源等も見回るような回遊性の向上にもつながる。 →来訪者の満足度を高めるために、もてなしの施設を整備する。



第2次大津市景観計画原案の策定について

議題2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

景観重点地区ワークショップ結果の景観計画への反映について

	地域資源や特性への追加 (3章 景観重点地区の景観資源への追加)	景観まちづくりの取組 (6章 景観づくりのアクションへの追記)
堅田地区	伊豆神社など 	琵琶湖岸や内湖に係わる取組に係わる意見を踏まえて追記 ・地域で清掃した水辺を散策するイベント等に参加する ・地域の「語り部」(ボランティアガイド等)に話をしてもらう機会や人材育成を充実させる
坂本地区	八王子山への眺め  穴太衆積みの水路 	地区の資源や地名度を上げるための取組に係わる意見を踏まえて追記 ○地域の魅力を情報発信する ・地域の「語り部」(ボランティアガイド等)に話をしてもらう機会や人材育成を充実させる
大津百町地区	曳山をみる棧敷のある町家  寺町商店街 	祭が似合うまちにしたい取組に係わる意見を踏まえて追記 ○地域の魅力を情報発信する ・祭りの巡行ルートや催事情報を情報発信する

第2次大津市景観計画原案の策定について

議題2 景観重点地区ワークショップ結果報告について

景観重点地区ワークショップ結果の景観計画への反映について

ワークショップの結果を計画に反映させた箇所については、他の部分と区別して表記する。

(3) 坂本景観重点地区の景観資源

西側には標高約700m前後の緑豊かな比叡の山並みが連なり、地区の代表的な自然景観資源となっています。東西に走る通りからは、町並みの向こうに琵琶湖が見え、逆に西を走ると町並みの後方に山並みを見ることが出来ます。

また、日吉大社、延暦寺の聖域群、穴太家構みの石積みなどの歴史文化資源とともに、伝統的な町家等の民家群によって、数多らしい個性ある景観が構成されています。



3章-17

3章 景観重点地区における景観形成方針と行為の制限に関する事項



3章-18

② 仲間のできるアクション

近所の人に声をかけ、協力して景観づくりのアクションを行います。庭に植える花に共通点を持たせるなど、取り組みやすいことから始めます。「イルミネーション」など、一定期間だけのイベントのよいに行うこともできます。自分のまちの景観が変化すれば、景観に目を向ける人も増えます。

○隣近所で景観づくりに取り組む

アクション例

- ・通り沿いの悪草や雑草をみんなで清掃する
- ・それぞれの庭先やベランダに花を植える
- ・みんなでゴミ拾いを行う
- ・ご近所でまち歩きを行い、景観の現状と課題を共有する
- ・仲間とボランティアガイドを始める



清掃する・ゴミを拾う 花を植える

○商店街や事業所で景観づくりに取り組む

アクション例

- ・1階部分を開放的なデザインにする
- ・屋外広告物の位置を揃える
- ・のれんの色を揃える
- ・敷地周辺を清潔にする
- ・外から見える敷地内を緑化する
- ・照明を工夫し、夜間景観を演出する



外壁等を緑化する
広告物や旗幟の色を揃える 開放的なデザイン

6章-7

③ 地域コミュニティのできるアクション

地域で話し合い、仲間で行ってきた取組を地域ぐるみの活動へと広げます。地域で景観に関するルールなどを定め、地域をより良くする景観づくり、まちづくりへと展開します。

○地域で良好なまちづくりに向けた活動をする

アクション例(◆：市民ワークショップ意見より)

- ・地域のイベントやお祭りを盛り上げ、にぎわいをつくる
- ・通学路で子ども達の留守り活動やあいさつ運動をする
- ・路店街でイベントを企画する
- ・空き地を利用したフリーマーケットを企画する

◆地域で保全清掃した水辺を散策するイベントに等参加する(市民ワークショップ意見より)



地域のイベントを企画する、参加する

○地域の生活環境を整える

アクション例

- ・自治会や町内会が公園の清掃を行う
- ・街路樹や河川の維持管理に取り組む



みんなが使う場所を清掃、維持管理する

○地域の魅力を情報発信する

アクション例(◆：市民ワークショップ意見より)

- ・歴史的建造物を活用した展覧会を企画する
- ・まち歩きイベントを企画し、地域の良いところを情報発信する
- ・地域の情報紙を発行する

◆祭りの巡回ルートや催事情報発信する(市民ワークショップ意見より)

◆地域の「語り部」(ボランティアガイド等)に話をしてもらおう機会や人材育成を充実する(市民ワークショップ意見より)



地域のまちなみの写真展の開催 まち歩きイベントを企画する

6章-8

第2次大津市景観計画原案の策定について その他 今後のスケジュールについて

